

I 研究概要

1 研究主題

「ことば力向上 ー学び合いのできる生徒の育成を目指してー」

本校では読解力を向上させるために、平成18年度から「ことば力向上」の研究に取り組んできた。二年間の取り組みで研究の目指す方向や方法などを含め、多くの成果があった。生徒の活用力を向上させるため、「ことば力向上」の研究の継続と学習形態・発問の工夫、「書かせること」を重視していく。

(1) PISA 型読解力の定義

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力

(2) ことば力の定義

読む・書く・聞く・話す、の4つの力

(3) 活用力の定義

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力

2 研究のねらい

本校の課題を改善し、活用力を向上させるために次のような研究の仮説を立てた。

(1) 本校の課題

ア 語彙力不足

イ コミュニケーション力不足のため、よりよい人間関係をつくれない

ウ 読解力不足

(ア) テキストを正確に読みとる力

(イ) 内容について適切な質問をする力

エ 表現力不足

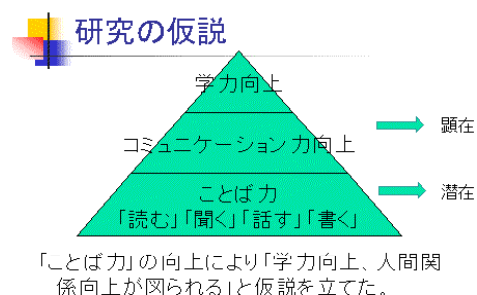
(ア) 根拠や理由を明確にして思いを伝える力

(イ) 伝えたいことを正確に伝える力

(ウ) 自分の意見を述べる力

(2) 研究仮説

ことば力（読む・聞く・書く・話す）の向上によりコミュニケーション力や学力向上が図られる。

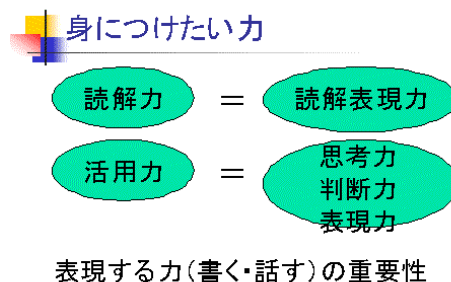


3 研究の概要

つけたい力を明確にし、4つの取組を行うことによってことば力を向上させる。

(1) つけたい力

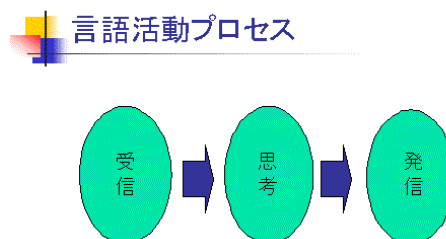
- ア 読む・聞く（読解力・思考力）
 - ・テキストを正確に理解する力
 - ・書いてあることをもとにして推論し、熟考・評価する力
- イ 書く・話す（表現力・コミュニケーション力）
 - ・テキストに基づいて自分の考えを書く力
 - ・グループや全体の前で目的に応じて自分の意見を述べたり、発表したりすることができる力



10

(2) 全校での取組

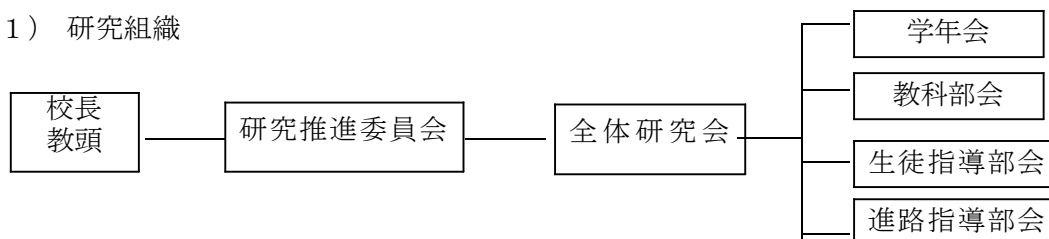
- ア 読書活動の推進
- イ 総合的な学習の時間のカリキュラムの工夫
『ことばの時間』の実施
- ウ 授業改善
 - (ア) コミュニケーション力を高めるグループ活動
 - (イ) 発問の工夫
- エ 評価（テスト）の工夫



11

4 実践研究の経過

(1) 研究組織



＊ アドバイザーとして、国立教育政策研究所教育課程研究センター総括研究官 有元秀文氏を招聘しての研修会を行い指導・助言をいただいた。

＊ 11月20日に研究発表会を開催し、全ての教科で公開授業を実施した。

5 実践の内容及び成果

(1) 具体的な取組及び取組上の工夫・留意点

- ア 読書活動の推進
 - (ア) 朝読書
 - (イ) 毎週金曜日の朝に実施するリーディングタイム
 - ・ A4一枚程度のさまざまな分野の資料を読み、課題に応じて根拠をもとに自分の意見や考えを文章にまとめる。
 - (ウ) 新聞記事を活用した授業
- イ 総合的な学習の時間カリキュラムの工夫
 - (ア) 「ことばの時間」の実施（1・2年生20時間、3年生10時間）
 - ・ 言語技術習得のための時間を確保する（発表の仕方、5W1H、事実と意見、描

- 写、問答ゲーム、要約、再話など)
- 生徒の習得した言語技術を教科の授業でも活用する。

(イ) 知識や技能の活用場面の設定

- 各教科で学んだ知識や技能も活用して、「話す・書く」活動を多面的に実施する。

ウ 授業改善

(ア) コミュニケーション力を高めるグループ活動の導入

- 課題を明確にし、活動の手順を把握させ、討議の仕方や発表の仕方も指導する。
- 必ず自分の意見を持ってから、グループで話し合う。

(イ) 発問の工夫

- 何のためそのテキストを読むのか、そのテキストから何を読み取らせたいのかを明確にする質問が必要である。
- 主体的に考え、判断しながら理解できるように、内容や意見を批判的に捉えさせる。
- 資料を読み、根拠を明らかにして自分の考えを言ったり書いたりする。

(ウ) オープンエンドの課題設定

エ 評価の工夫

- (ア) 定期テスト、実力テストなどで「読解力」を問う問題を出題する。
- (イ) 教科ごとにレポート・作品等による評価を行う。
- (ウ) スピーチやプレゼンテーションなど発表による評価を行う。

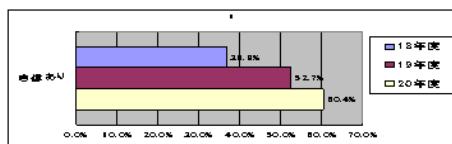
(2) 成果等

ア 生徒の意識調査から

読解力(表現力)、言語技術、コミュニケーション力については多くの項目で6割の生徒が自信があると答えている。昨年までの意識調査と経年比較すると「力がついた」「自信がある」と感じている生徒が増加した。

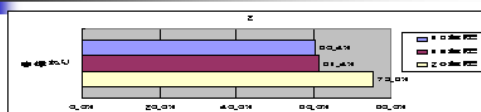
取組の成果 生徒の変容の面から

読解力(表現力)、言語技術、コミュニケーション力については多くの項目で6割の生徒が自信があると答えている

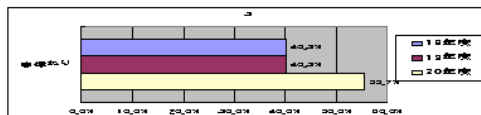


事実と意見を区別して読んだり書いたり話したり出来ますか。

取組の成果 生徒の変容の面から



自分の気持ちや意見を相手に正確に伝えることが出来ますか。



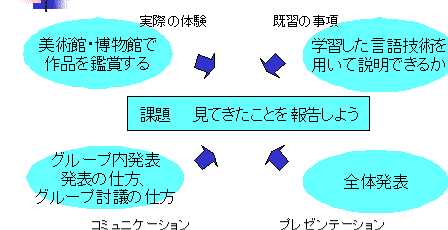
根拠をもとに意見を言ったり書いたりすることが出来ますか。

*上記のグラフは、20年度卒業生のことば力に関する意識調査の経年比較である。調査年度は18年度、19年度、20年度である。

イ 授業や作品から

- 発表の場を多く設定したことにより、全体的に発表する力がついた。
- グループ活動や発表が円滑に行えるようになった。
- リーディングタイムや多くのレポート・課題を通して、文章を書くことに対する抵抗感

「ことばの時間」指導実践例

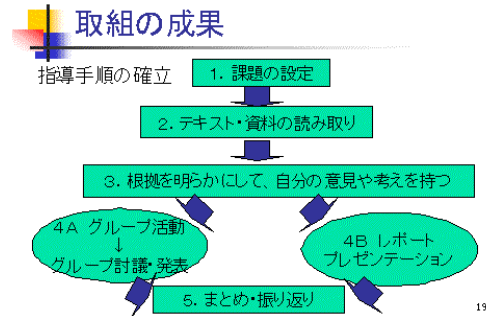


が少なくなり、表現力がついてきた。

ウ 校内研修会から

指導手順が確立できた。授業改善の2本柱(グループ活動と発問の工夫)を授業の流れの中に位置づけることにより、各教科で共通実践することができた。

ただし課題によっては1時間内で完結する場合と一単元をかけてこの流れをたどるものがある。



6 今後の課題

ことば力を評価する問題の作成と実施の継続と、ことば力の検証方法の工夫が必要である。学力があっても思考すること、論述(討論・記述)することを面倒くさいと感じている生徒もいるため、今後も授業の中でグループでの討論や、思考し記述する時間を確保し、質の高いコミュニケーション力や記述力を育てていきたい。語彙力の向上に取り組み、学んだことを日常の言葉遣いやコミュニケーションに生かすために粘り強く指導していかなければならない。重点課題として次の3つがあげられる。

(1) 読解力の向上

リーディングタイムで扱うA4程度の文章でも、発問を工夫することでより質の高い読解の訓練になる。読解したことを表現したもの(生徒の作文・レポートなど)を見ると一定の成果は見られるものの、全校生徒に十分な読解力・思考力が身についたとは言えない。今後は読書の質・量ともにさらに高めていく必要がある。方策としては3つある。1つ目は朝読書の工夫、2つ目はリーディングタイムの継続、3つ目は各教科の授業内でさらに資料を読み、活用させることが求められる。

(2) 校内研修の充実と授業改善

ア 校内研修の充実

イ 教科部会、学年会での授業に関する協議の充実

ウ 研究授業の活性化

(3) カリキュラムの見直し

新学習指導要領の実施に向けて、総合的な学習の時間のスリム化を行う。

また、教科や分野によっては、1年から3年まで系統立てた指導の工夫が必要である。

II 研究実践

英語科

1. 英語科における「ことば力」について

(1) 読む力・聞く力

- ① 英語を読んだり聞いたりして、話の概要を理解できる力
- ② 得た情報を整理して、自分の考えを深めることができる力

(2) 話す力

- ① 場面や状況に応じて適切な英語を用いてコミュニケーションを継続できる力
- ② 自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる力
- ③ 読んだり聞いたりしたことに対して、的確に質問をする力

(3) 書く力

- ①正しい文法にそって英語を書き表す力
- ②テーマに沿って自分の伝えたいことを見だし、必要な材料をもとにして自分の考えや気持ちをまとめる力

2. 研究の重点項目と「ことば力」の関連

(1) コミュニケーション力を高めるグループ活動

ペアやグループ活動を重視し、言葉が相手に伝えるためのものであることを常に意識させる。英語で発表するための準備は日本語で行っているが、グループ討議では段階を踏んで生徒同士が英語でQ&Aを行う。お互いに英語で討議を継続できるように、英語の司会原稿を活用する。

(2) 発問の工夫（クリティカルシンキング、クリティカルリーディングができる授業）

英語で書かれた（話された）文章の内容を整理して日本語に要約する、または簡単な英文でまとめる練習を行う。話の概要を理解するための問いだけでなく、その題材について自分の意見を持ち、考えを深めるための問いを日本語・英語の両方で工夫する。また、そのように考えた根拠をテキストの中から言わせるようにする。既習の語彙や文法知識を活用して、英文で答えさせる問いも工夫する。

論理的な思考を育てるために、必ず理由を述べることを習慣化する。

3. 英語科における「活用力」を活かす指導

(1) 感想や意見を英語で書き、発表する

1年生の頃から、簡単な英語で感想や意見を書かせる場面を設定し、継続する。特にALTとの授業では、感想を英語で書くという活動は必然性があり、またALTからのコメントも英語でフィードバックされるので、次につながる活動となっている。

I think	主語＋動詞.
It's ()	, because 主語＋動詞.
結論先行	I think / I agree [disagree].
理由（ナンバリング）	I have three reasons. / There are three reasons. First, Second, Third,
結論の繰り返し	So,/ Therefore,

- ①型を指導し、活用させる。
- ②定期的に、継続指導する。
- ③よい例をフィードバックし、より具体的に人と違うことが書けるように指導する。
- ④感想に使用する形容詞を増やす。

(2) まとまりのある英文を書く

1単元に1回以上は英作文を書くことを継続してきた。まず、基本となる英文を暗唱し、暗唱した英文を使って「英借文」から始めることで書くことへの抵抗感を軽減してきた。また自己紹介等、毎年同じテーマを扱い英文の難易度を上げ、より個性的な文章が書けるように段階的に指導する。

- ① イラストや写真の内容について英語で説明する。
- ② 聞いたことをもとに、内容を要約する。
- ③ いろいろなテーマで、英作文を書く機会を増やし、継続した活動を行う。
- ④ パラグラフライティングを導入する。
- ⑤ 書いた原稿をグループ活動で発表する。またはスピーチを行う。

(3) 質問力を磨く

コミュニケーションを継続するためには相手に質問する力が必要である。授業では毎回読んだ内容について英問英答を行っているが、答えるだけでなく、自ら質問する力を育成する。

- ① Q&A活動 資料を読んでグループで質問を作成しとその答えを英語で書く。
- ② ALTと一対一で会話をする機会を設ける。